

## 『恒石重嗣の生涯／宣伝主任参謀の太平洋戦争』

NPO 法人インテリジェンス研究所特別研究会  
特別研究員 名倉有一 (e-mail: nagura95@gmail.com)

## □疑問:前回(2020-07-11)発表後

疑問	調べた資料
1. 参謀本部は在外総軍(南方軍、支那派遣軍、関東軍)の対敵放送を統轄していたのか?	・NHK 放送文化研究所蔵資料 (「第五回東亜放送協議会議事要録」ほか) ・北山節郎『ラジオ・トウキョウⅡ』
2. 満州事変の後、日本は海外宣伝で中国に負けて国際的に孤立していったのか?	・ヂー・ゴルマン「日本の宣伝負けは昔から」 山本武利編. 十五年戦争極秘資料集. 不二出版, 2006 (『宣撫月報』第3巻, 1938)
3. 「ゼロ・アワー」を成功させた恒石とはどういう人物だったのか? →資料を時系列に編集した 『恒石重嗣の生涯』作成中	・池田徳真「Bunka Camp Story」(1964) ・読売新聞『昭和史の天皇／ゼロ・アワー』(1967) ・丸亀歩兵第12連隊記念誌(1985)寄稿 ・オーテピア高知図書館, 高知地方法務局

## □分かったこと

1. 参謀本部は対敵放送の中核機関でない。

(1) 東亜放送協議会等の記録(p.3.「資料」参照)

(2) 『心理作戦の回想』(以下(心理))の記述:「…東京放送に準じて現地軍において独自の見地から放送していたものであるが、重要なテーマについては適時参謀次長の指示を電報し、また必要に応じてはそれ等の電波を某地域に集中する戦略的運用を行っていた。」(p.346)

【恒石の海外出張】表の◎は同時期か(東條首相が6月30日～7月12日南京と南方を歴訪)

出張先:総軍(司令部)	時期・回数
関東軍(新京)	(心理)に記述なし
支那派遣総軍(南京)	〃 /◎上海(經由多分南京)1回(私信)
南方軍(シンガポール)	◎43年7月:シンガポールへ業務連絡(心理 p. 103) ◎ 〃 (?):ジャカルタ 〃 (同.p. 112)
(仏 印)	サイゴン2回:①43年11～12月(同.p. 203)※ ②45年1月『機密戦争日誌 下』 p. 657.

※「安南(ベトナム)独立に伴う宣伝業務指導ならびに連絡」(心理 p. 203)としているが  
43年末に安南独立の動きがあったか疑問で、②との混同ではないか。

2. 日本の国際的な孤立は「宣伝を怠った結果」(ヂー・ゴルマン. 上記書)

国際宣伝に必要なこと	日本(負け)	中国(勝利)
嘘をつかない	○	×
伝える相手の心理を洞察する	×	○
自画自賛を避け第三者に言わせる	×	○

3. 恒石重嗣の生涯 (p.3~4.「年譜」参照)

(1) 戦前

○軍人志望の時期

・高知県立高知城東中学校(旧高知一中) vs 高知県立中学海南学校→広島幼年学校

○入学後1年休学(「延期生」)

・44期生会回想録:入学355名+「前の期より」6名-中退46名=卒業315名

○丸亀連隊

・「中学校の同級生が初年兵(幹部候補生)として入ってくる訳である」

(2) 戦時中

○42年8月の西大佐8課長就任以前は捕虜を利用した対敵放送を考えていなかった。

○宣伝改革:情報局奥村喜和男次長-宮本吉夫課長-並河亮情報官が「硬直」の元凶

対 象	方 策(太字:恒石が直接関与)
・「勇ましい言葉を叩きつけるのが宣伝だ」と考える軍人・シビリアン(例。放送技術が低く、「硬直している」ラジオ・トウキョウのアナウンサー)	・ <b>雇員にベテラン捕虜採用(技術指導、改善策提案)</b> ・沢田進之丞:朝日新聞寄稿 ・平川唯一:専門誌寄稿 ・ <b>二世・捕虜を主体とした前線班によるゼロ・アワー</b> ・ <b>参謀長会議で第一次大戦時の英国の宣伝を解説</b> ・『英国の宣伝秘密本部』再版 ・「英文放送事前監査室」設置
米国の知識や最新情報が不足している官庁・東方社・駿河台分室・立教大学アメリカ研究所の担当者	・ <b>傍受した米国中波放送の回覧</b> ・ <b>外国通有名人のレクチャー、情報交換</b> ・ <b>日本に輸入されていない米国映画の上映</b>

○45年3月の明号作戦(仏印武力処理)に先立つ現地出張(1月)

(3) 戦後(51年サンフランシスコ平和条約締結後)

○52年高知県軍恩連盟結成後に新設の金剛建設(株)取締役就任(裏方)

○(公的活動(表舞台)開始に先立ち)78年『心理作戦の回想』自費出版

・反論:ドウス昌代、池田徳眞、村山有

【池田徳眞著作との関係】

1962年	「東京ローズ」始末記	<i>Bunka Camp Story</i> (64年)
78年	『心理作戦の回想』	・池田「62年に書き64年に書き直した」 ・17~20章が欠落 ・『日の丸アワー』(79年)第5章で欠落部分を記述

□分からなかったこと

○対敵宣伝における外務省と参謀本部との関係

・43年4月情報局改組. 天羽情報局新総裁、奥村喜和男次長を更迭

・外務省を退職した藤村信雄が同年5月以降に対米謀略放送準備を開始

○戦後の事業成功(一等地で喫茶店開業→貸しビル業)と元部下・伊野部重珍との関係

□資料

- ① 第五回東亜放送協議会(42年4月):大本営は現地放送局の統括要望拒否、関東軍は独歩・華北広播協会(北京)専務理事・葎村外雄:「出来れば対外宣伝の中枢機関が欲しい」  
 ・中国放送協会(南京)常務・浅野一男:「対敵放送は中央で統一した方が徹底して良い。[中略]連絡は放送局には完全な暗号がないから軍に依頼したい。尚ニュース編輯者を中央に集めて教育する機会を作れば能率が挙がるのではないか」  
 ・陸軍報道部(東京)・武田大尉:「中央に於て統括すると遅れる場合もある。現地で作戦案を作つて中央に出せば各軍に協力する様に伝へる。その世話は引受ける」  
 ・関東軍(新京)・齋藤少佐:「満州の対外放送案は関東軍で嚴重に検閲してゐる。大本営の指令は大綱であり幅のある事は当然である。満洲では日本が言つては拙いこと、充分言えない事を満州が代わつて存分に言ふ。この方針で放送を指導してゐる。関東軍の使命は對ソ作戦準備一本である(※)。従つて放送も之に集中してゐる。北方に事が起つた場合の計画を各地とも今から充分に立てゝ貰ひたい。」(※)満州国は参戦していない。

【第5回・第6回の比較】在外総軍は第5回の関東軍以外不参加、恒石は第6回参加

回	開催日	参本8課	陸軍報道部	関東軍	支那派遣軍	南方軍
5	42年4月27~28日	—	少佐・大尉	少佐	—	—
6	43年4月15~16日(?)	恒石少佐	少佐・囑託	—	—	—

【出典】NHK 放送文化研究所蔵「第五回東亜放送協議会議事要録」ほか、第六回議事要録なし。

② 南方軍の放送:占領地の放送施設修復後、藤原岩市少佐が統一的な運用に苦心

「その後進攻作戦の完了とともにシンガポール、バンドン、ラングーン、バンコック、サイゴンなどの主要放送局をはじめ、地方放送局を含めて二十数局がわが軍のもとに放送を再開し、地域住民に対する広報宣伝のため活躍していた。しかしながら、当初はその殆んどが現地各軍にまかされ、南方全域にわたつての連絡調整がないままに運営されていた。インド、オーストラリアの他の敵連合軍の後方地域および敵軍に対する放送は、これを統一的に運用する必要から、藤原[岩市]少佐はこれを憂慮し、着任した原務中尉(乙1短)とともに、南方軍報道部を強化して各軍宣伝部の内面指導に當つた。この頃、インド国内に対するラジオ放送の統一強化は、一日もこれを放置できない状況であつたので、軍は当時総司令部附として岩畔機関に勤務していた山口源等(乙1長)に南方軍報道部放送科長兼務を命じ、シンガポール放送局の緊急整備をはかるとともに、対印放送の統一調整を行うこととなつた。[中略]昭和十八年八月には、内閣情報局主催のもとに東京において東亜放送連絡協議会[?]が開かれ、山口中尉と原中尉とがこれに出席した。」[中野校友会編『陸軍中野学校』p.548-549]

□年譜

【戦前】

年	月	日	事項
1909	10	19	誕生(大岡昇平, 松本清張, 淀川長治が同年)
	27	3	高知県立高知城東中学校(高知一中)卒業
	32	7	陸軍士官学校卒業. 44期
		10	25 丸亀歩兵第12連隊. 陸軍歩兵少尉任官
	34	10	20 " 中尉進級

37	2		北満独立守備隊 25 大隊転任
	11	1	陸軍大尉進級
38	6		陸軍大学校入校
40	6		〃 卒業, 東満第 12 師団後方主任参謀
41	10	1	第 12 師団少佐進級
	11	18	参謀本部着任. 第 2 部第 8 課配属

【大戦中】

42	1	頃	米国内の中波放送傍受・配布 (ソ連放送傍受がヒント?)
	5	26	捕虜カズンスの東京へ護送命令
	8	20	交換船で帰国した西義章大佐が第 8 課々長となる
	10		フィリピンから捕虜インス、レイズ到着
	11		捕虜に「日本ノ対外放送ニ対スル意見」執筆させる
43	3		「ゼロ・アワー」放送開始
	10	15	第 2 部第 8 課廃止, 第 4 班課員
	11	3	参謀本部駿河台分室開設
	12	2	「日の丸アワー」放送開始
44	3	1	新設された英文放送事前監査室に池田徳眞を派遣
45	1		仏印出張
	3	1	中佐進級
	6	20	四国第 55 軍兵站業務担当参謀

【戦後】

45	9		米軍の戦犯追及に対応するため軍務局付
	10	16	四国軍管区参謀に復帰
	12	1	復員、喫茶店「田園」開業 (開業年不明~57/63 年譲渡)
			47 年暮れまでの 2 年間に 23 回 GHQ 出頭 (片道 37 時間)
48	9	15	「東京ローズ」裁判証人として訪米 (~10 月下旬)
49	6	18	〃 〃 (~8 月中旬)
	10	1	米軍曹プロボウ裁判 〃 (~11 月初)
52	5		高知県軍恩連盟結成
	9	8	新設された金剛建設 (株) 取締役就任 (74 年会社解散)
62	10		雑誌「論争」10 月号に「「東京ローズ」始末記」寄稿
63	4		警察犬コンクールで飼育犬が日本一 (65 年 4 月再度)
67	8	7	高知市秦泉寺 321 に土地購入, 翌年 3 月新築 (登記日)
	10	9	読売新聞連載「昭和史の天皇／ゼロ・アワー」(~16 日)
77	1	21	東京ローズ特赦 (1/19) について高知新聞に感想
78	8	10	『心理作戦の回想』自費出版
80			高知県軍恩連盟副会長就任 (?) (先代が会長代理就任)
81			〃 会長代理〃 (?) (〃 第 6 代会長〃)
82	3		高知県偕行会会長就任 (~90 年 3 月)
88			高知県軍恩連盟第 7 代会長就任
95	3		『高知軍恩連盟の歩み』上梓
	8	11	朝日新聞夕刊. 「謀略を担った「捕虜放送局」」掲載
96	9	19	逝去

以上